

(99) 岩手県湯田町の 土畑鉱山跡 (畑平鉱区と鷹ノ巣鉱区)

参考文献(1)を手引きにしているが、この鉱山跡は現在の地形図に、廃鉱山として位置が記載されている。従って、現地の確認は容易であり、現地への経路も難しいことはない。図1、図2、図3に、国土地理院の地図サービスからダウンロードした地形図を、複写掲載している。図1は広域図、図2、図3は部分拡大図である。この付近を、Google Earthで空中探査した結果を図4に掲載している。すると、地形図中の鉱山跡に相当するあたりに、緑の中に、茶色っぽい部分が確認できる。以上の通り、現地の位置等の事前調査は比較的簡単にすんだ。これらを探査資料として持参し、現地の探査に出かけた。

畑平鉱区跡の現地への経路は次の通りである。東北道を北上し、北上JCTで、秋田道に入る。錦秋湖の先、湯田ICで、高速道を下車する。107号線を、東の方に戻り、向山トンネルを抜けた後、118号に入り、直ぐに、215号に入って、南下していく。107号を右折してから、約2km当たりで、進行方向左側、川を挟んだ左手前方の山の斜面に、大規模な鉱山施設跡が、段々畑のように木々の中に埋もれるように残っている。畑平鉱区跡である。

鷹ノ巣鉱区への経路は、畑平鉱区からだ、次の通りである。107号に戻り、北上に向かって東進する。右側に、錦秋湖がある。錦秋湖の途中で、右折し、133号に入り、直ぐに橋を渡る。橋を渡った少し先で、細い道に右折する。踏切を渡り、高速道路下を通り、道に従って南下していく。錦秋湖から、約3km当たりで、鷹ノ巣川に架かっている橋を渡る。ここから少し先に、鷹ノ巣金山の掲示板が右側に立てられている。一読の価値はあろう。鷹ノ巣鉱山入口は、この橋から、100mほど道を戻る。図3で明瞭である。元鉱山道が車両通行止めならば、ここから歩いていこう。

探査日 2011年 8月



図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。右上部は錦秋湖である。この湖に沿って下側を秋田道が走っている。左側に、南北に延びている道路の途中に、鉱山記号と「廃坑」の文字がある。畑平鉱区跡である。右側には、風倉山の所に、鉱山記号と「廃坑」の文字がある。鷹ノ巣鉱区跡である。

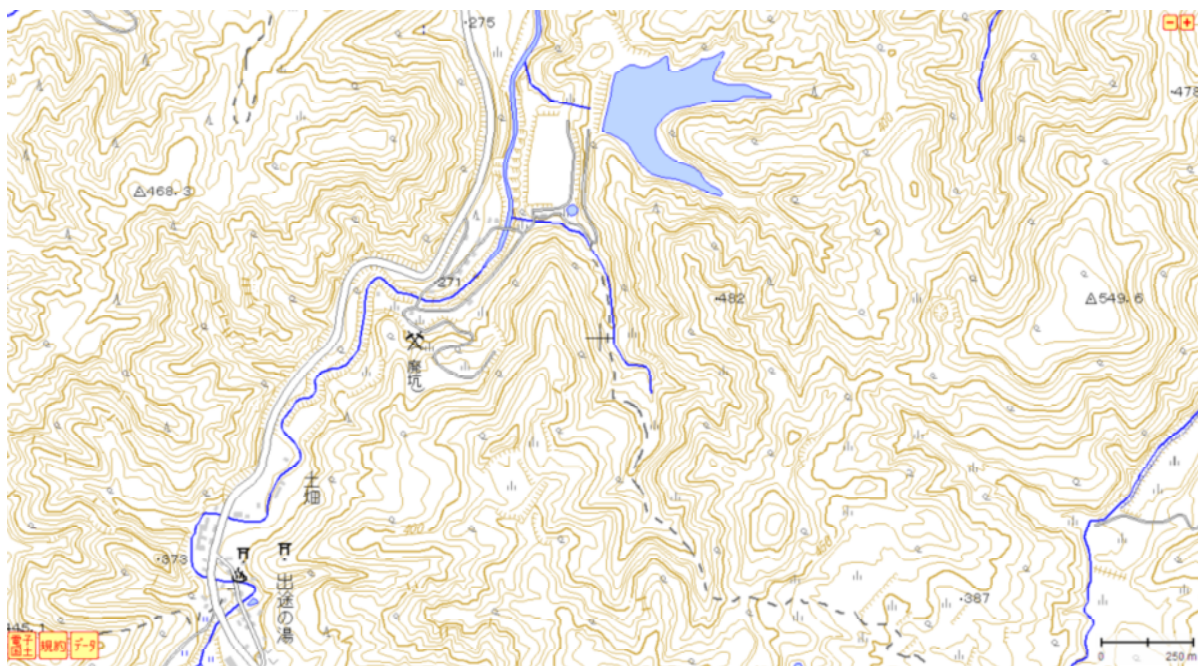


図2 図1の部分拡大地形図。畑平鉱区である

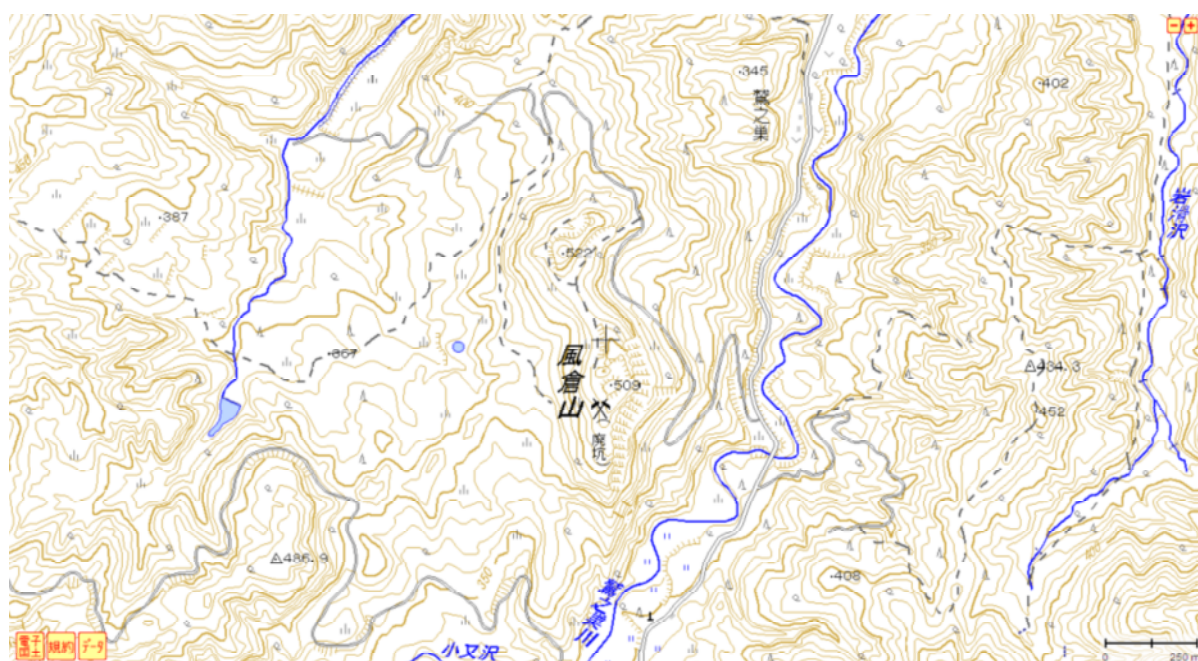


図3 図1の部分拡大地形図。鷹ノ巣鉱区である。

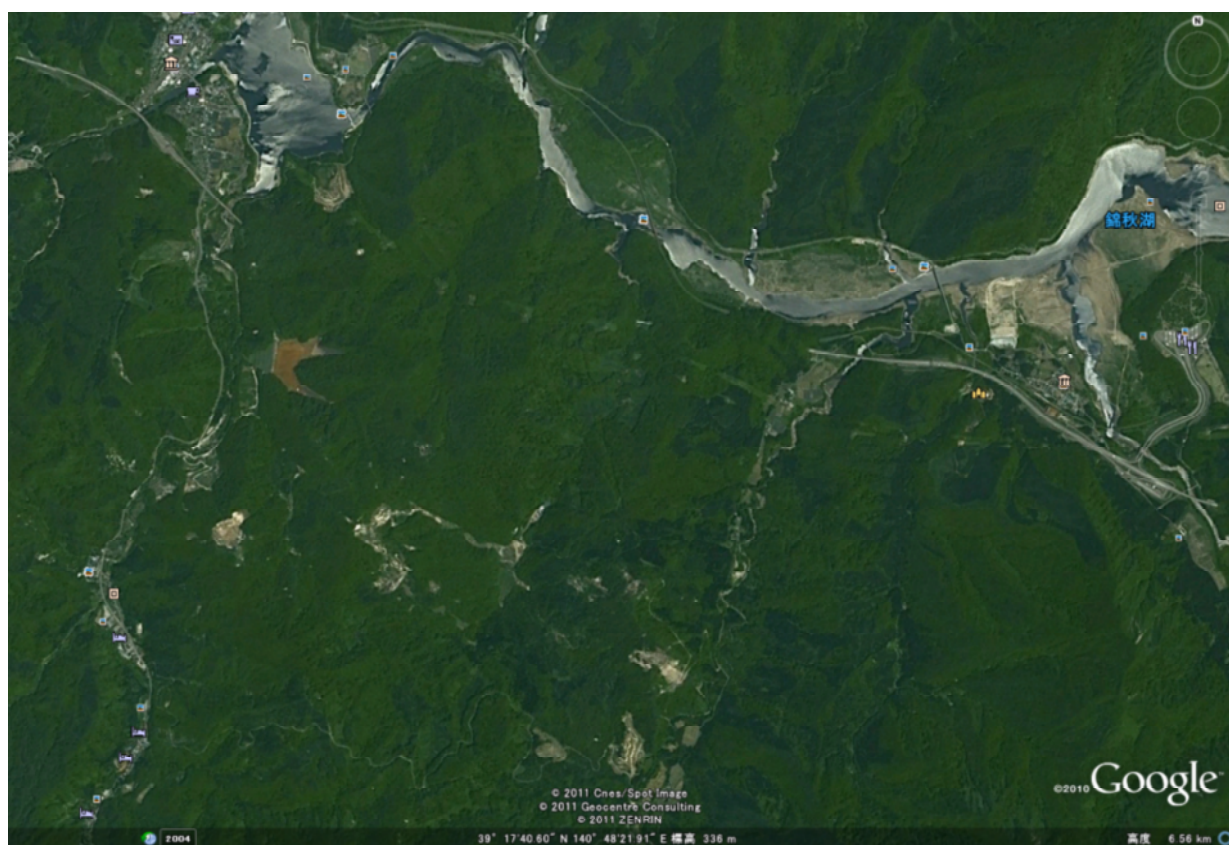
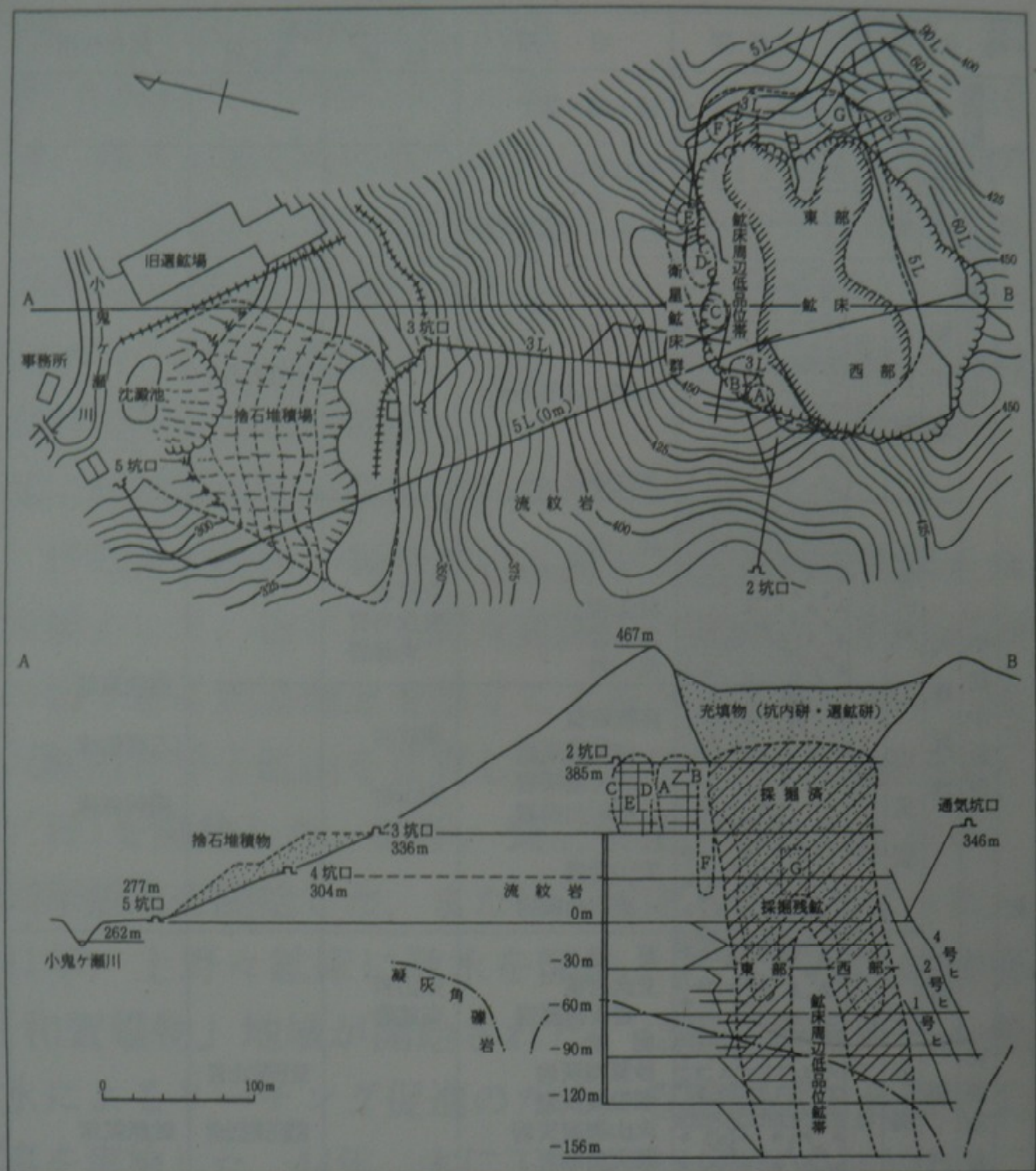


図4 Google Earthより複写掲載。図1，2，3と対照すると良い。ネットでアクセスし、拡大してより詳細に視認するのも良いであろう。



第115図 畑平鉱床坑内外関係図およびA—B断面図(岩手県資料)

図5 参考文献(1)より。畑平鉱区の鉱山図である。この図と、図2とを対照させるのも面白い。近傍の山の山頂部全体が巨大なすり鉢になっていることが予想される。図4の衛星写真からもわかる。

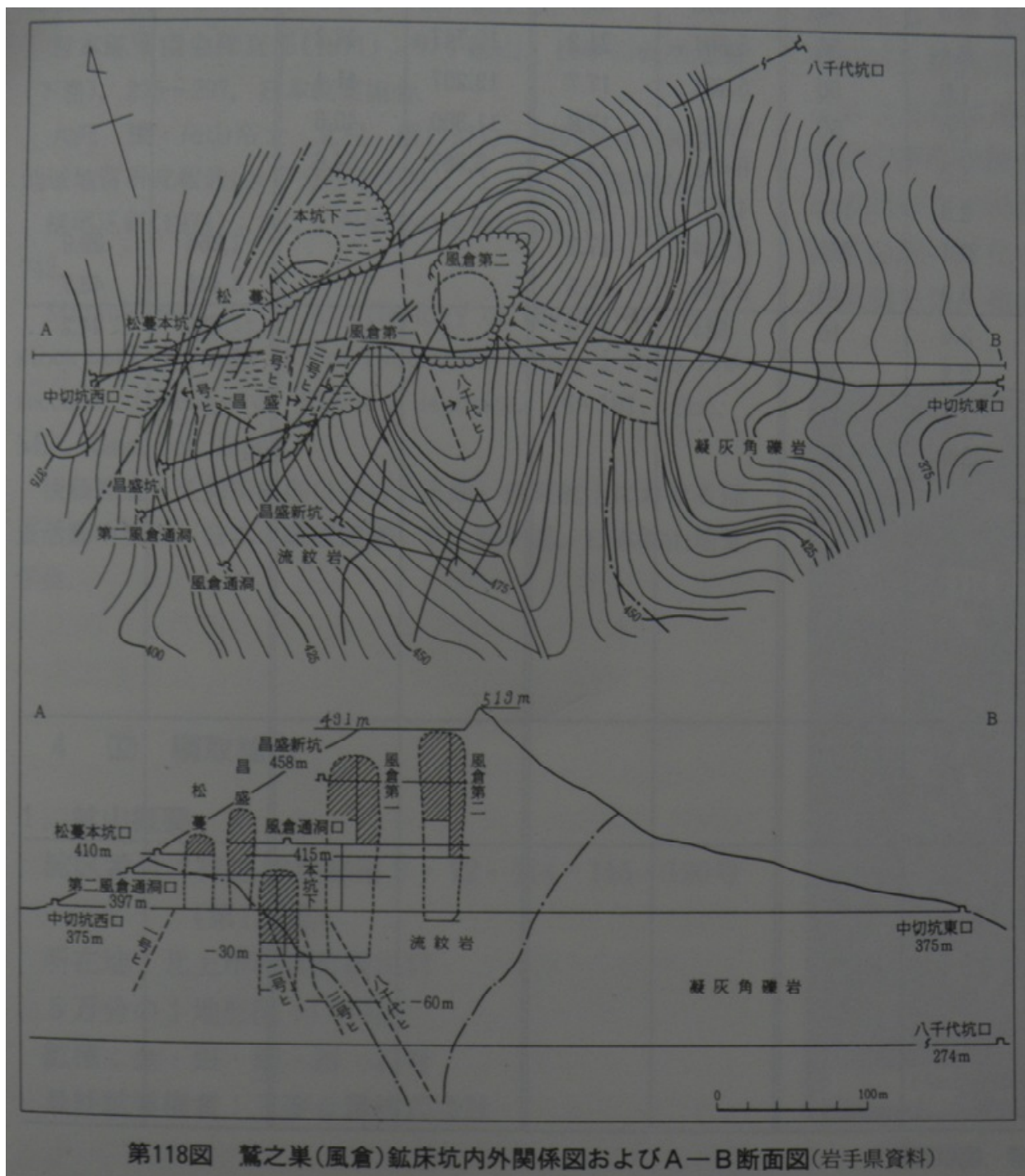


図6 参考文献(1)より。鷹ノ巣鉱区の鉱山図である。この図と、図3とを対照させるのも面白い。図3の鉱山記号が記されている位置より北側、・522の山にあった鉱区のようなのである。

鉾山跡写真

畑平鉾区



写真1 215号を南下していくと、左手前方の弾の斜面に、木々の中に鉾山施設跡が見える。

鷹ノ巣鉾区



写真2 鷹ノ巣金山と藤原氏との由来が解説されている掲示板。前方の岩場が鷹ノ巣鉾区の1つである。



写真3 写真2で見えた場所に林道を歩いて登っていった。広大な鉱山跡である。ズリも沢山であるようだが、めぼしい物は採集できなかった。金山跡ではいつもこうである。

採集鉱物写真

特になし。が、このあたり一体には、至る所に鉱山跡がある。日時が許すならば、じっくりと視察・探査を繰り返してみたい所である。

参考文献

(1)「新岩手県鉱山誌」、高橋維一郎、南部松夫、東北大学出版会、2003年。